

防災ニュース藤原(3号)

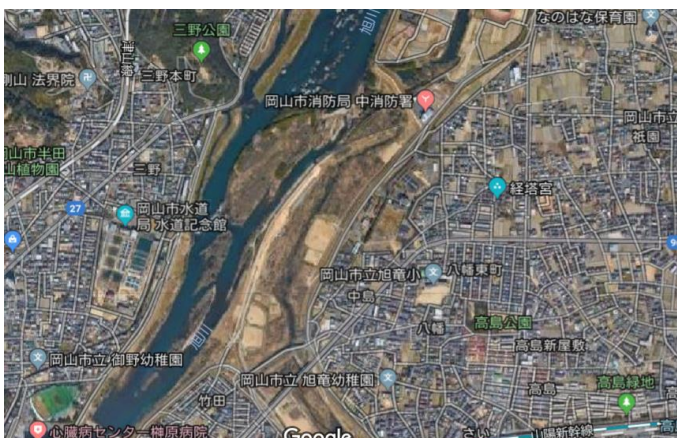
発行日	2019/11/15
発行者	藤原町内会広報部
発行責任	藤原自主防災組織会長 高橋正幸

防災ニュース藤原(3号)では、幡多学区、藤原地区の自然災害に大きな影響を及ぼす『百間川』についてまとめています。

1. **百間川の歴史** 旭川の放水路である百間川は、承応3年(1654)の大洪水を契機に、岡山城下を守るため、岡山藩に仕えた熊沢蕃山の案をもとに津田永忠が設計・施工したものです。この工事は貞享4年(1687)頃に概ね完成し、その後、幾多の洪水から岡山城下を守ってきました。そして、現在も岡山市街を守り、今なお残る百間川の治水施設群は、平成27年に(公社)土木学会選奨土木遺産に認定されています。

2. 百間川と旭川の分岐

現在の中消防署(中島)付近に分岐点があり、水の流れを制御するために昨年新しい荒手堤が完成しました。分岐点から児島湾の水門までの約14キロメートルが百間川になります。



百間川分岐地点



現在の一の荒手堤

3. 百間川の本格的な大改修

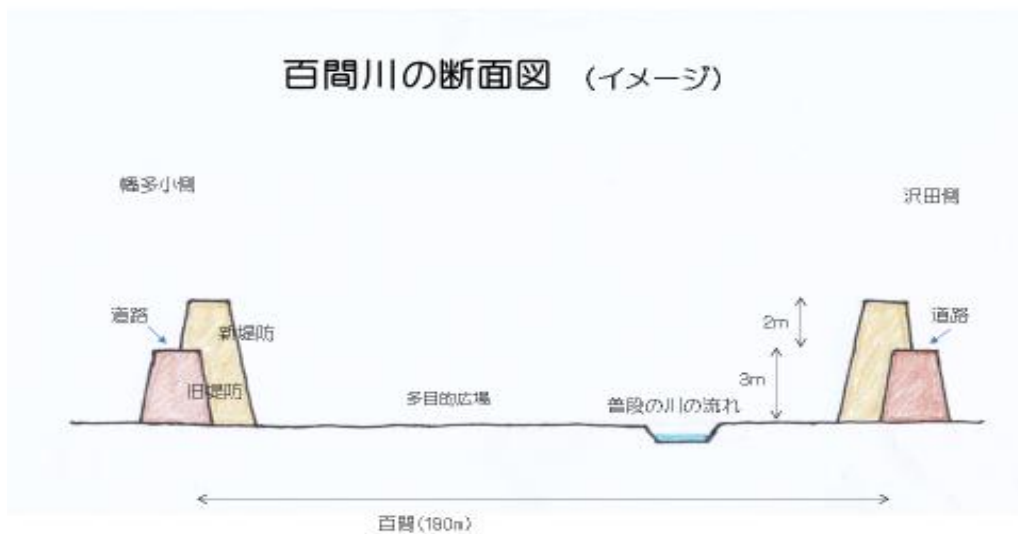
昭和41年、過去最大である昭和9年洪水を基に、旭川と百間川の流量配分が決まりました。しかし、百間川自体の河川断面にその排水能力がないため、堤防などの本格的な大改修が昭和49年から始まりました。大改修は既存堤防のかさ上げ、無堤防地区に新たに堤防の築造、そして平常時に水が流れる水路を堀削するというものです。洪水の際に断絶していた道路も橋梁に変わり、人々が安心して暮らせるだけでなく、岡山市東部の市街化も進みました。



改修前 百間川中を走るけえべん鉄道



改修前洪水の様子（昭和40年中区海吉地区）



上図は、江戸時代初期の築造当時と改修後の河川断面イメージです。



百間川改修の様子

★次号（4号）では、昨年7月の西日本豪雨の際の幡多地区、藤原地区の様子を報告する予定です。